

「神はそれぞれの人を協力させ用いられる」 ピリピ 2 : 17 ~ 30

神は、色々な人々を、そして私達を用いられる。

- I 神に用いられるパウロ：小アジアのキリキヤのタルソ生まれのユダヤ人（使徒 9 : 11、21 : 39）。キリスト者を激しく迫害する者だった。しかし主は救い、造り変え、主の働き人として用いられる（9章）。今も、最初はキリスト教に反対だった人々を救われる。2. パウロ自身が整えられつつ、兄弟姉妹が、傷のない神の子供となり、いのちのことをしっかり握って、世の中で世の光として輝くために心から主と人々を愛して労する人。3. たとい自分が、兄弟姉妹の信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても（主の為の殉教の死を遂げても）喜ぶ人に主が変えられた→ : 17。パウロは日頃から主の為の死を覚悟し、主からの愛をもって決死の思いで福音宣教をしていた。彼の祈りと願い→「いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです」 1 : 20。4. 彼は、罪人のかしらである自分の為に十字架で死なれた主をいつも喜び感謝していた。「しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたい」 : 19。主の働き人は、人を励ますと同時に励ましを必要としている。私も皆さんから励ましを受けている。感謝。神に立てられた福音の宣教者は、その宣教によって救われた人々が教会を形成しどうしているか知って励まされる。働き人にとって、兄弟姉妹の存在が誇り、喜び、励まし。5. 自分より若い人を心から尊敬し、評価し、喜んで協力する。2 : 22。6. 行動も願いも主に伺い御心を第一とし、主にあって望み、確信する。 : 19、24。7. 大切な人を必要な所に送る人。配慮の人。2 : 28。
- II 神に用いられるテモテ：小アジアのルカオニア地方のルステラ生まれ。ギリシャ人を父とし、ユダヤ人を母として生まれ（使徒 16 : 1-）、忠実にその任に当たった協力者。2. 福音宣教と同じ心になって、真実に兄弟姉妹の事を心配している人。 : 20。3. 「だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません」 : 21。しかし、テモテは、彼を救われた主の事を愛し、この方の事を第一にした。「りっぱな働き（原語：本物である事の証明、確証、試験済み、練達）」 : 22をした。りっぱな働きとは、人目に良く見せようとする働きではなく、心をご覧になる神の前に主を第一とし、主の喜ばれる純粋な動機でする働き。子が父に仕えるようにして、彼はパウロと一緒に福音に奉仕して来た。年齢の違う自分より年上の人を心から尊敬し仕え、一緒に労する。このような人々を昔も今も神は用いられる。
- III 神に用いられるエパフロデト：「ハンサムな、魅力的な」という意味。実際は？ 1. ローマの獄中にいるパウロに、ピリピ教会からの贈り物を持って来たピリピ教会の信徒。4 : 18。パウロはピリピ人への手紙を託して回復した彼をピリピ教会に送り返すことにした。2 : 28。パウロの兄弟（同じ神を父とし神の子供とされた家族、兄弟）、同労者（福音の為に共に働く者）、戦友（共に真の敵である悪魔と戦い、困難な時、共に主の為に苦しみにあずかる戦友）、またピリピ教会の使者（愛の捧げ物を届ける為に遣わされた使者）、としてパウロの窮乏の時に仕えた。神は、霊的な面で支える人、物質的な面で支える人の両方を用いられる。神の働き人は、信徒を霊的に支え、また信徒から愛の協力で支えられる。教会は互いに支え合う共同体。3. 彼は兄弟姉妹のすべてを慕い求めていた。彼はパウ

ロとピリピの人々を愛していた。自分の病気の事がピリピの兄弟姉妹に伝わった事を気にしていた。：26。死ぬほどの病気にかかった。※神は昔も今も生きておられる！→「神は彼をあわれんでくださいました。彼ばかりでなく、私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにしてくださいました」：27。今も私達はこの生ける神の憐みを体験するのです。：30→彼はキリストの仕事の為に、いのちの危険を冒して死ぬばかりになった。彼は、彼を心から愛し、彼の為に実際に十字架で死なれた主の深い愛を知り感謝していた。主からいただいた愛を実践した。彼は、パウロに対して、ピリピの兄弟姉妹がパウロに仕えることができなかつた分を果たそうとした。私達も、主からいただいた愛で、自分にできる分で愛を分かち合えますように。

IV 主からいただく喜びにあふれて、主にあつて、主の仕事の為に人を遣わし、労する人々に尊敬を払い、心から迎える人々、教会を神は喜ばれる。：29。主に用いられる教会は、人を遣わし、人を喜んで迎える。

V 神は、私達を用いられる。この箇所から教えられる事。1. 神は違っている人々を用いられる。同じ人はいない。神は、私達一人一人に違いとそれぞれの賜物を与えておられる。だから比べる事は意味がない。違いに意味がある。→「一つのからだには多くの器官があつて、すべての器官が同じ働きはしないように」ローマ12：4。2. 神は、違っている私達一人一人をバラバラにではなく、互いに愛し合い、違いを認めて尊敬し合い、互いに協力して主の為に働き、宣教のわざをするようにさせられる→「大ぜいいる私たちも、キリストにあつて一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです」12：5。「互いに愛し合い、尊敬をもって」12：10。パウロ、テモテ、エパフロデト、ピリピの兄弟姉妹、そして私達は、主にある一致を保ち、互いに愛し合い、協力し合うように召されている。これは素晴らしいことである。「あなたがたは一致（主を中心とした）を保ち、同じ愛（神からの純粋な愛）の心を持ち、心を合わせ（主に心を合わせる事から生まれる）、志（神の御心を第一としたいという志から生まれる）を一つにしてください」ピリピ」2：2。祈り：主に心からお互いが愛されている事を忘れず、主からの愛をいただいて、互いに愛し合い、主の教会を建て上げる事と福音宣教の為に協力し合う者として下さい。